



研究室 HP : <http://www.okochi.env.waseda.ac.jp/about.html>

April 1, 2009

担当教員から



ようやく春めいてまいりましたが、御父兄およびOBの皆様、いかがお過ごしでしょうか。早いもので3月25日に卒業式を迎えました。当研究室にとって初めての修士課程修了生6名(一期生:本田,三宅,松延,滝口,前島,船倉)とともに、学部卒業生6名(三期生:栗島,金子,持田,松田,金子,嵯峨)を送り出しました。学部卒業生のうち4名は本専攻大学院に、1名は他専攻大学院に進学しますが、修士課程修了生6名と学部卒業生1名は新たに社会に飛び立っていきました。当研究室で過ごした日々が、少しでも卒業生諸君の役に立てくれればと願うばかりです。

この3月には新たに6名の3年生(内野,大西,吉見,神谷,林田,馬)を当研究室に迎えました。当研究室も4月で4年目を迎え、新たなスタートを切りました。

今号では、卒業特集号として、当研究室OBであり、現在、社会で活躍されている中牟田さん(一期生)と横山さん(二期生)にご登場いただきました。また、一期生諸君から寄せられた言葉をご紹介します。どうぞお楽しみに下さい。

山梨大・小林先生の講演会

昨年11月28日に、富士山で共同観測を行っている山梨大学の小林拓先生に『南極での観測・生活風景～越冬隊員の視点から～』と題して御講演をしていただきました。



～小林先生(左)～

小林先生を一言で表すと「気さくなスポーツマン」風の先生なのですが、今回の御講演はそんな小林先生らしい、学生の興味を強くひきつけるもので、南極での大気化学観測に関する貴重な研究結果や南極での越冬生活についての大変興味深いお話でした。

講演会の後には、小林先生を囲んで当研究室の学生、日本女子大学の宮崎先生と宮崎研究員の学生、小林研究員の学生と懇親会を行いました。大人数でにぎやかに、今後に繋がる有意義な交流をはかることができました。

卒論・修論発表会

2月6日に卒業論文、同月9日に修士論文の発表会が行われました。卒業論文と修士論文の主査は名古屋先生、修士論文の副査は香村先生と大和田先生に務めていただきました。これまでの研究成果の集大成の場であったことから、普段とは違う緊張感がありました。ですが何回も事前練習を重ねていた甲斐があり、皆胸を張って発表することが出来ました。



～堂々と発表する本田さん～

学会発表を経験している修士学生の発表は、今後の皆の目標となるような貫禄があったように思います。B4の学生には今後に向けた良い経験となりました。

卒業式・謝恩会

3月25日に卒業式が行われ、当研究室からは修士6名、学部生6名が無事に卒業することが出来ました。全学卒業式の前に、学科ごとの学位記授与式が行われました。証書を受け取ると卒業の実感がわき始め、先輩方や同期との別れが急に寂しくなりました。それでも、最後まで笑っていたあたりは研究室などの楽しかった学生生活を表しているようにも思えます。



～証書を受け取った大河内研卒業生～

戸山記念会堂で学部全体の卒業式が行われた後、リーガロイヤルホテルにて謝恩会が行われました。先生方から卒業生に向けた一言一言が、私たちの心に残る非常に暖かいもの

でした。...が、各研究室でのプレゼントが皆個性的なものだったため別れの雰囲気とは少し違ったような気がします(笑)。



～大河内先生へのプレゼント(左は昨年まで)～

1年間お世話になった先輩方や同期と合えなくなると寂しいです。皆さん、いつでも研究室に遊びに来てください!

OBから一言

中牟田 圭さん(H18卒)



修士課程修了生の皆様、学部卒業生の皆様、この度はおめでとう御座います。私は、修士課程修了生の皆さんと同期ということもあり、特に今年思い入れの深い年です。社会人になってからの二年間は、皆さんと交流する機会が少な

かったにも関わらず研究室に遊びに行った際は暖かく受け入れて頂き誠に有難う御座いました。皆さんと一緒に過ごした時間が、仕事の忙しさや辛さを忘れさせてくれました。本当に感謝しております。しかし、今度は皆さんが忙しくなる番です。辛くなった時は、又皆で研究室に集まって飲んで忘れましょう。私が今までのお礼として辛いことを全て忘れさせてあげます。社会人になった皆さんとすぐに再会できることを楽しみにしております。

横山忠功さん(H19卒)



卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。大河内研での思い出は、どのような思い出がありますでしょうか?卒業式の日にはお邪魔するので、是非聞かせて下さい

(本田さん&前島さんのとってこそ〜い話良い話を期待しています)。私は社会人になってまだ一年ですが、大河内研での経験は非常に役立っていると感じています。研究を進める上で、「自ら考え自ら行動する」ことは非常に重要なことであると思いますが、これは社会人になっても変わりません。就職される方、進学される方、進路はさまざまだと思いますが、大河内研での1年間及び3年間の糧として、これからもがんばってください。

卒業生からいただいた「宝物」 大河内
卒業生諸君からいただいた色紙には、たくさんの暖かい言葉が綴られていました。研究室追い出しコンパで、私は不覚にも酔いつぶれてしまい、卒業生諸君にきちんと挨拶をすることができませんでした。その後、卒業生からメールで感謝と励ましの言葉をいただきました。私にとって一生の「宝物」です。その一部を抜粋させていただきます。

大河内研は研究内容、雰囲気どれも他研究室以上のものを持っていると確信しています。また、先生が大学の教授であるとともに熱意ある指導者だった事で、皆が成長する事ができたと思います。これは研究室に入り、先生と向かい合って生活していく中で気付いた事であり、少しでも資源の後輩達に知ってほしいと思うことです。が、実際には大河内研はあまり良い評判を受けることができませんでした。大河内研のよさは入って初めて実感できるものなのかもしれません。熱い気持ちは向かい合っている自分達にはよいものであっても、覚悟ができていない人にとっては遠ざかる要素になっているように思えました。

先生への感謝の言葉は本当に色々あってまとまりません。本当にありがとうございました。最後に写真をとって直にお礼を述べる事ができなかったのが残念ですが、皆がいうように研究室をふるさとと思い、いつでも寄れたらと思います。4月から大河内研を卒業した事を誇りに思い、一生懸命頑張ります。

追いコンお疲れ様でした。途中からバカ騒ぎになってしまいましたが、最後はみんなとし

んみりして感動して泣いてしまいました(泣)。先生とは社会人になってからまたゆっくりとお酒を飲みながら、お話が出来ればと思っています。僕は大河内研究室にいたことを誇りに、また幸せに思っています。三年間を通じて先生には数えられない程のものを頂き、本当にありがとうございました。僕も先生に負けないように自分の夢を持ち、夢に向かっていけるように頑張ります。今後も研究室ではいろいろなことがあるでしょうが、OBの力が必要になったときはいつでも呼んでください。喜んで駆け付けます！

私も夢を叶えるために頑張っていきたいと
思います。それでは、また会いましょう。

大河内先生には、3年間大変お世話になりました。大河内先生の考え方、生き方からも学ぶことが非常に多く、大河内研で過ごした3年間はとても貴重な経験となりました。またみんな、大河内研に行きたいと思います。今度、大河内研に行った時に、胸を張って先生とお会いできるように、仕事を頑張りたいと思います。最後になりましたが、お体には十分お気をつけください。大河内研がますます発展していくことを祈っています。3年間、本当にどうもありがとうございました。

一昨日は大河内先生、研究室の後輩のおかげで大変良い卒業式となりました。改めて大河内研究室を選んだことは間違いのないと思いました。大和田研と香村研の乱入で、大河内先生のお話が聞けなかったのは大変残念ですが、色紙にいただいた言葉は社会人になっても忘れません。僕は先生のように、学生時代から夢を持って努力してきた人間ではないので、まずは「夢を見つける」ことを目標に頑張っていこうと思います。3年間本当にありがとうございました。

先日は卒業式および追いコン、お疲れ様でした。素敵なプレゼントもどうも有り難う御座いました。最後は悲惨な状況でしたが、飲んで潰れて、涙が枯れるほど泣いた、思い出に残る最後の飲み会でした。研究室で過ごした日々は、全て大切な思い出です。

2008年度修論・卒論研究テーマ名

< 修士論文 >

- ・滝口祥一：丹沢山塊における森林表層土壌の化学特性と酸性沈着の影響評価
- ・船倉崇弘：山岳大気中ガスおよびエアロゾル観測システムの開発と評価
- ・本田 拓：丹沢山塊における渓流水の化学特性と窒素飽和現象の解明
- ・前島幸司：大気中多環芳香族炭化水素の動態と森林樹冠による捕捉効果
- ・松延明典：降水中フミン様物質の定量と化学特性の解明
- ・三宅雄貴：有害有機化合物の降水促進吸収機構の解明

< 卒業論文 >

- ・金子千穂：都市型豪雨が酸性沈着に及ぼす影響評価と雨水資源化技術に関する基礎的検討
- ・栗島 望：里山の大气浄化能およびクールアイランド効果
- ・嵯峨俊太郎：大気エアロゾル中フミン様物質の動態と起源の解明
- ・松田 健：フォトフェントン反応による大気および水中有害有機汚染物質の分解
- ・丸山祥平：山岳域における酸性沈着量分布の解明と大気沈着量観測システムの開発
- ・持田雄一郎：都市域における大気水象現象の質的・量的変遷とその変動要因

法政大学の小寺先生来訪 大河内
法政大学文学部地理学科の小寺浩二先生が特別研究員として当研究室に1年間滞在されることになりました。小寺先生は本学理工学部機械工学科の御卒業であり、大学時代は理工ポート部で私のコーチをしていただきました(鬼コーチでした!)。また、私が学部4年生で進路選択に迷っていたときに貴重なアドバイスをいただいた恩師です。

現在、小寺先生は水文地理学を御専門とされており、日本全国ばかりか海外も研究フィールドとして活躍されています。今後、当研究室の丹沢における渓流水や富士山周辺の水循環・物資循環について共同研究を展開していきたいと考えています。次号では、小寺先生から自己紹介をしていただきますのでお楽しみに！



2009年度大河内研メンバー(左が小寺先生)

今後の研究室予定

- 3/30 前期研究室開始、お花見
- 6/12・13 理工スポーツ大会
- 7月下旬 富士山集中観測
- 8月上旬 ユニラブ ゼミ合宿

ニュースレター係から

研究室の中心だった先輩方が抜け、僕らにも後輩が入ってきました。果たして僕らは卒業した先輩方のようになれるのでしょうか...まずは春休みボケを直すところから始めないといけないようです。大河内研究室を引っ張って行けるように、これからも頑張りますのでよろしくお願ひします!(栗島)



ニュースレター係(左:栗島、右:内野)

新しくニュースレター係に就任した4年生の内野です。研究室が始まってから早くも二週間が経ちました。ようやく生活リズムが戻ってきたかなと思っています。開始早々から手首の骨折・入院・手術と皆さんに迷惑をかけてしまいましたが、これからは研究室の活動をニュースレターを通して広くお伝えしていきますのでよろしく御願ひします。(内野)